生活に楽しみを持ちたい利用者への余暇活動の支援の効果と課題

３年７組１１番　金井菜都

１　はじめに

私が今回の実習で受け持った利用者は日中座っていることが多く、うつむいている様子が何度か見られたため、余暇活動を行うことで生活に楽しみを持ってもらうことができるのではと考え、計画を立てた。実施し評価することで、利用者の状態に配慮した声掛けや環境づくりが重要だと学び、また職員も知らなかった利用者の一面を知ることができた。

そこで、利用者の状況と今回のケアの方法を振り返り、良かった点と改善点をはっきりさせ、今後の課題を明確にするためにこの報告書をまとめる。

２　事例概要（受け持ち期間：平成２５年６月７日～６月21日
平成２５年10月１日～10月22日　計25日間）

（１）生活歴等

Ａさん、８０歳代、女性。
平成２４年１２月に施設に入所。既往歴は結核・右膝骨折・乳癌(左乳房切除)で、現在既往歴による影響はないようだった。現病歴は認知症・高血圧症・メニエール病。認知症の薬(アリセプト®)は、嘔吐してしまうため、現在は内服していない。メニエール病と高血圧症の薬(カルネート錠®)の副作用により、歩行時のふらつきが見られるため、手引き歩行で移動する。(図１参照)

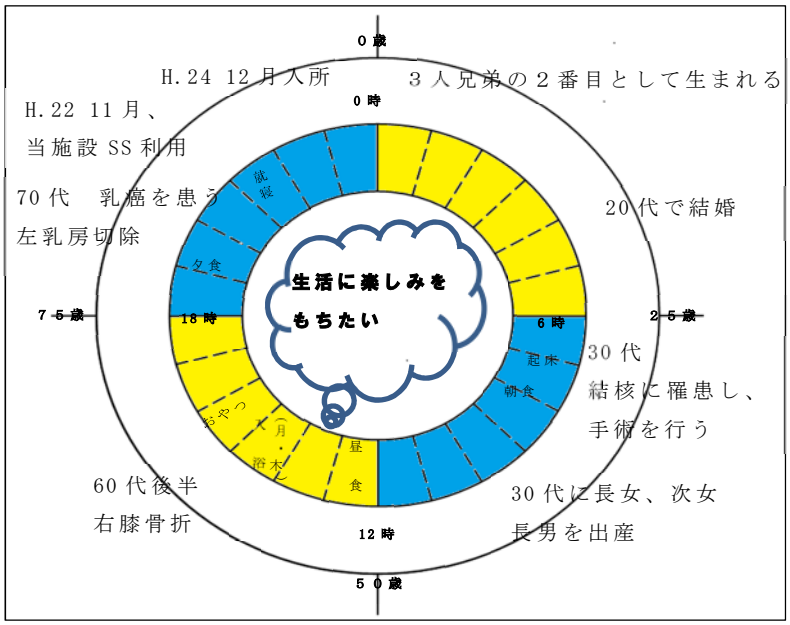


図１：ライフサイクルチャート

（２）ＡＤＬの状況

認識面では、起床時間・就寝時間を理解しているようで起居動作は自力でできている。便意・尿意があり、排泄行為を失敗したときに恥ずかしいと感じ、清潔にすることを理解している。また空腹を感じることができる。

行動面は夜間失禁してしまうことがある。歩行では、長距離歩くとふらつき・つまずきが見られる。コミュニケーションでは他の利用者との会話を楽しむことができていた。(図２参照)

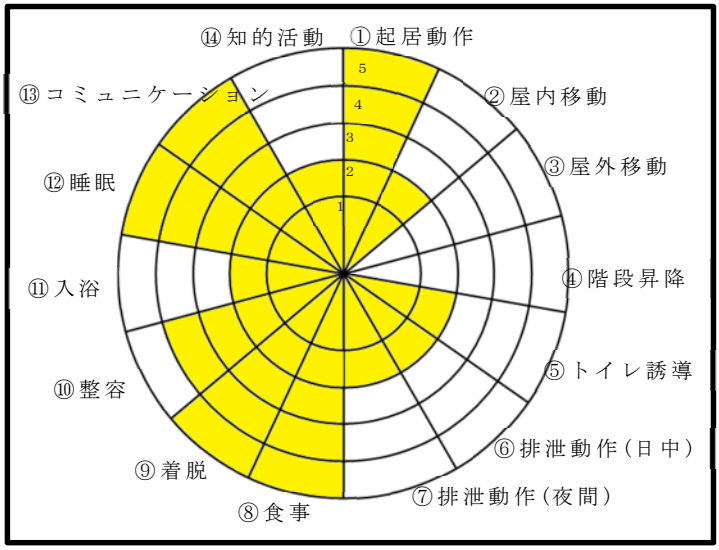


図２：活動・ADLチャート

5.自立　4.見守り　3.口頭指導
2.一部介助　1.全介助
未記入.情報不足

３　介護過程の展開

（１）アセスメント

アセスメントシート（表１）を用いて、６月７日にアセスメントを実施し、１０月１日に再アセスメントを実施した。

「余暇活動」では、①②④⑤よりレクに参加していることがわかる。④⑤からは、レクを楽しんでいる様子だった。③⑧⑨と様式４より編み物が得意であったこと、また⑦からは、孫にセーターを作ろうという意欲があることがわかる。⑥からは、人形が好きだということが考えられる。

「役割」では、①より仕事を手伝ってもらっていることがわかるが、②から、うつむいている様子が見られ、退屈そうにしていたようだった。

以上のことより、満たされていないニーズとその理由として、

ｉ　レクがない時はうつむいていることが多く、自分の好きなことができていない。

これより、受け持ち利用者がもつ生活全般のニーズとして＃４「自分の好きなことをして、生活に楽しみが持てるようになりたい。」があると導き出した。

表１：アセスメントシート(抜粋)

項目	主観的情報	客観的情報	間接的情報
余暇活動	①(レクで歌った時)「歌は好きでも嫌いでもないね。普通です。」(6/7) ③「刺繍とか編み物、好きですね。」(6/7) ④(レクでカゴを作った時)「いいのができたね。何入れようか。」(6/12) ⑦「孫のセーター編みたいね」(6/13) ⑧「編み物は得意だったよね」(10/2) ⑨「セーターとかは 2 日で編んだよ」(10/3)	②歌った時は口ずさむ程度だった。(6/7) ⑤カゴ作りでは、隣の利用者さんを気遣いながら行っていた。(6/12) ⑥ベッドに人形が４つ置いてあり、タンスの中にもいくつか人形が入っていた。(6/12)	
役割		②うつむいていることが多い。(6/17)(10/1)	①職員より ・エプロンたたみやテーブル拭きを手伝ってもらっている。(6/11)

様式４より

家族の思い
・同年代の方とゆっくり過ごしてほしい。 ・外出や散歩の機会、また編み物などやれる機会がほしい。

（２）　介護計画立案

私は＃４「自分の好きなことをして、生活に楽しみが持てるようになりたい」というニーズを達成するために次の介護計画を立案した。

＃４：自分の好きなことをして、生活に楽しみが持てるようになりたい

長期目標	短期目標	支援方法
＃４－１ 生活の意欲を維持・継続する。 (10/7～3/7)	＃４－１－① 編み物をする。 ~~(10/7～10/11)~~ ↓延長 (10/7～10/21)	(１)編み物等による制作意欲をもってもらうために ・~~何を作ったことがあるのか、かぎ編みか棒編みなのか話を聞き、今までの習慣を理解する。~~ →(10/11)追加　棒編みを好むようなので棒編みを勧める。 ・布や毛糸、編み棒を用意し、関心を持ってもらう。 ・Ａさん一人ではあまりやってもらえないので同じフロアの利用者と一緒にできるように環境を整える。また、まわりの利用者にも声をかける。 ・~~Ａさんは人形が好きなようなので人形に関する小物を提案し、作ってみる。(秋冬なのでマフラー等)~~ →(10/11)追加　人形のマフラーを作成する。 ・退屈そうにしている時に誘い、なるべく一日の日課になるようにする。 →(10/11)追加 ・「どうやったらいいですか」のように尋ね、『教えてもらう』という姿勢で誘う。 ・30 分間と時間を決め、必ず簡単なストレッチ(腕上げ、肩の上げ下げ等)を、編み物をした後に行う。 →(10/21)追加 ・作る前に「何を作っているのか」ということをきちんと説明し、あれば完成したものや関連したもの(今回は人形)を見せてから編み物を行う。 ・細かい作業なので眼鏡を使用する。 ・ストレッチはなるべくＡさん一人で行わず、まわりの利用者と一緒に行う。

（３） 援助の実施

◆＃４-1-①-（１） 編み物等に制作意欲をもってもらうために

ｉ 方法

はじめは、施設にある着物の帯や明るい色の毛糸を用意し、関心・興味を持ってもらえるように声をかけた。編み物をする時は、Ａさんが編み途中のものを渡し、編んでもらった。

ii 注意したこと

・あまり長時間行うと持病であるメニエール病を悪化させてしまうため、必ず決めた時間内で行い、目の疲れや肩は痛み等がないか確認する。
・はじめは横に座り、一緒に編み物をしていたが、Ａさんの集中を途切らせてしまうので、見守る。

iii 工夫したこと

・人形のマフラーを編んだため、編むときはその人形を用意し、何をするのかきちんと説明してから行う。
・一人では作業をしたがらない方なので、編み物やストレッチをするときは、先に、他の利用者に声をかけてから誘った。

iv Ａさんの反応

誘ってみても「あんたやんなよ」とあまり乗り気ではないようだったが、私が少し編んでみて「どうやるんですか」のように尋ねると「やって見せようか」と編み物をやってもらうことができた。はじめは、一番簡単な編み方でやっていたが、途中から難しい編み方に変えていたので、慣れた様子が見られ、真剣な表情で行っていた。実習の最後の方は、「ここにこうやって通すんだよ、やってみる？」と教えてもらうことができ、Ａさんが他の利用者に声をかけることもあった。実施終了後は、人形にマフラーをつけ、「うまく出来たね、可愛いよ」「これで冬も越せるね」と笑顔であった。

（４） 評価～効果と課題～

編み物を実施したことにより、うつむいている時間が減ったと思われる。実施内容はＡさんが以前していた編み物だったが、施設に入所してからは編み物をしたことがないため、職員もどのくらいできるのか分からないということだったが、実際は慣れた手つきで行っていたので、Ａさんの可能性を探ることができたと考える。編み物をＡさん本人から教えてもらい、他の利用者に声をかけていたことから、フロア内でのＡさんの役割につながり、また、完成したことで次の意欲にもつながっていくと考えた。以上のことから、この計画は継続とする。

４　考察

今回の実習では、情報収集の際に記録から家族の「編み物をやれる機会がほしい」という事と利用者の言葉から余暇活動(編み物)に着目した。Ａさんの場合、編み物に誘うときは、「やりましょう」ではなく「どうやるんですか」と尋ねることがポイントだと考えられる。どのように言い換えて伝えれば、利用者の気持ちが変化するのかを考えることが重要であると感じた。編み物をやってもらうことで、うつむくことが減り、笑顔が多く見られたことから意欲を引き出せたのではないか。意欲を引き出すことで、生活に楽しみを持ってもらえたり、他の利用者との関わりが増え、ＱＯＬの向上にもつながっていくと考えた。このことを目標に介護計画の立案・実施・評価していくことがとても大変だということを理解することができた。利用者の情報は日々変化していくため、一番良い方法はないということ、また、ニーズを満たせるように、常にどのようにしたら利用者のためになるのかを考え続けることが必要であり、終わりがないことを実感した。介護過程はその場の思いつきでやるものではなく、根拠を元に計画して実施するものなのだということを学んだ。

５　参考文献

石野育子編；最新介護福祉全書７介護過程、メヂカルフレンド社、2013

生活に楽しみを持ちたい利用者への余暇活動の支援の効果と課題

2013. 11. 29

千葉県立松戸向陽高等学校　福祉教養科
3年7組11番　金井菜都

Aさんについて

80歳代、女性
要介護度 Ⅲ

《既往歴》

結核
右膝骨折
乳癌（左乳房切除）

《現病歴》

認知症
メニエール症
高血圧症

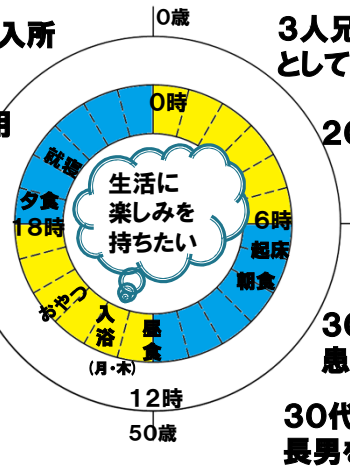
ライフサークルチャート

H. 24　12月入所

H. 22　11月
当施設SSを利用

70代　乳癌を患う
左乳房切除

60代後半
右膝骨折



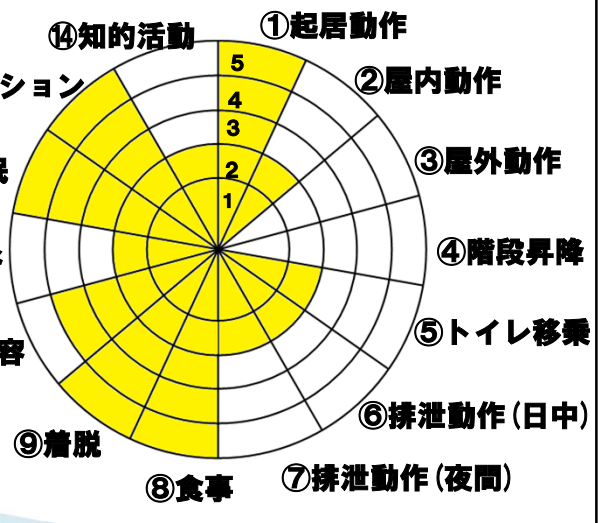
3人兄弟の2番目
として生まれる

20代で結婚

30代　結核に罹
患し、手術を行う

30代に長女、次女
長男を出産

活動・ADLチャート



介護過程の展開　①

アセスメントより

- レクに参加し、楽しんでいる
- 編み物が得意
- 孫にセーターを作ろうという意欲
- 人形が好き
- 仕事を手伝ってもらっている
- うつむいている、退屈そう

介護過程の展開②

ⅰ　レクがない時はうつむいていることが多く、自分の好きなことができていない。

＃４
「自分の好きなことをして、生活に楽しみを持てるようになりたい。」

介護計画立案

- **長期目標**
  ＃４－１
  生活の意欲を維持・継続する。
  (10/7～3/7)

- **短期目標**
  ＃４－１－①
  編み物をする。
  (10/7～10/21)

（1）　制作意欲をもってもらうために

- 棒編みを薦める。
- 環境を整える。
- 日課になるように。

Aさんの反応

10/8
「何編み？」 黙々と編んでいた。
他利用者さんに「やってみる？」
「あんたやんなよ」

10/15
編み途中のものを全部ほどく。
「この人形ね！」と笑顔

- 簡単な編み方から難しい編み方
- すぐに編み始めた。
- 「教えてください」というと手を差し出す。
- 前回との時間があき、説明不足　→ほどいてしまう。

- 「教えて」と誘う。
- 人形を見せ、説明。
- 時間を決めて行う。
- 軽くストレッチをする。

（1）　制作意欲をもってもらうために

- 棒編みを薦める。
- 環境を整える。
- 日課になるように。

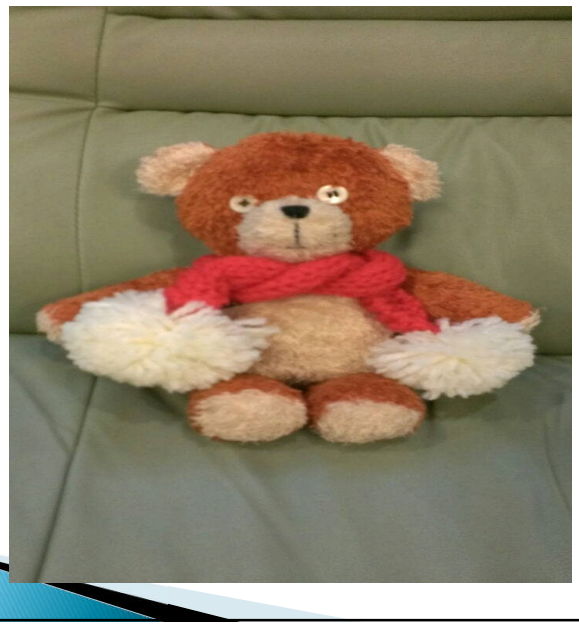
追加
- 『教えてもらう』
- 簡単なストレッチ
- きちんと説明、関連したもの
- メガネを使用

10/18
「ここは表編みだね」
「こうやって、ここに通すんだよ。
やってみる？」

10/21
「上手くできたね、可愛いよ」。
「これで冬も越せるね。」と笑顔

・Aさんに教わる。
　→積極的に行う

・笑顔が見られ、喜んでいた。



評価

うつむいている時間が減った。
教えたり、他利用者に声をかける。
マフラーの完成。

・フロア内でのAさんの役割
・次の意欲につながる

考察

意欲を引き出す。

↓

生活に楽しみを持つ。
他利用者との関わりが増える。

↓

QOLの向上

謝辞

ご静聴ありがとうございました。

- 優しいAさん
- 実習施設の職員さん
- 先生方
- わたしの家族

- さんなな、お疲れ様でした。